

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
理血剤 止血剤 5		
かいかさん 槐花散	清腸止血・疏風下気	槐花・側柏葉・荊芥穂・枳殻各 6g 水煎し服用する。細末にし 1回 6g ずつ服用してもよい。
本事方	<主治> 腸風臌毒下気 排便時の出血、糞便に血が混じる、痔出血などで、出血は鮮紅あるいは暗色を呈す。 <病機> 腸風、臌毒による下血で、風邪や湿熱が腸胃を壅遏したために発生する。 腸風下血は、風邪が陽明経脈に侵入して化熱したり肝経風熱が腸胃に横逆し、風熱の邪が陰絡を灼傷して、突然に四方に飛び散るような出血をきたす。血熱妄行のために鮮紅色の出血を呈し、口乾、舌質が紅絳、脈が数などを伴う。 臌毒下血は、湿熱が腸胃血分に蘊結して化毒し、陰絡を損傷して出血をきたすもので、経過がやや長いほか、蘊結のために紫黒色や血塊を混じえる出血、あるいは血便を呈する。湿熱阻遏による肛門部の硬い腫脹、腹満、舌苔が黄膩、脈が滑などの症候を伴う。 <方意> 清腸涼血、止血を主とする。 主薬は清腸涼血、止血の槐花で、涼血止血の側柏葉が補助する。荊芥は血分に入って祛風し、炒炭すると止血に働く。枳殻は下気寛腸する。全体で涼血止血、清腸疏風、寛腸の効能が得られる。 <参考> 加減法 熱盛には、黄連・黄柏を加える。 下血が多ければ、地榆を加える。 出血が長期にわたり血虚を呈するときは、補血の四物湯などを合方するとよい。	
かいかくがん 槐角丸	清腸止血・疏風利気	槐角 50g・防風・地榆・当帰・黄芩・枳殻各 25g 粉末を糊丸にし、1回 9g を湯で服用する。約 1/5 量の水煎し服用してもよい。
和剂局方	主治は、腸風下血、痔瘡。 本方（槐角丸）は槐花散とほぼ同じ構成で、清熱燥湿に優れている。 清腸涼血、止血の槐角、涼血止血の地榆、祛風の防風、下気宣陽の枳殻、清熱燥湿の黄芩および当帰からなる。	